

特別支援学級児童の「心のつぶやき伝えるシート」を 活用した交流及び共同学習の充実

—— 特別支援教育コーディネーターがつなぐ支援体制づくりを通して ——

長期研修員 高野 友美

《研究の概要》

本研究は、小学校において、共生社会の構築に向けて交流及び共同学習の充実を図ることを目指した研究である。特別支援教育コーディネーターが特別支援学級と通常学級のつなぎ役となり、連携を取りやすくし、児童同士が共に学習活動に取り組めるようにするための方法を具体化するものである。特別支援学級児童が、自分のよさや自分らしさを発揮して通常学級児童と活動するために、授業や生活におけるつまづきを把握することができるシートを作成した。そのシートを基に、特別支援教育コーディネーターがつまづきを分析、支援を設定、授業づくりに活かすことで充実した交流及び共同学習へとつなげられるようにした。その結果として、児童同士が互いを認め理解し合う気持ちを育成できることを、実践を通して明らかにした。

キーワード 【特別支援教育 特別支援学級 特別支援教育コーディネーター
交流及び共同学習 心のつぶやき伝えるシート】

群馬県総合教育センター

分類番号：I 0 1－0 1 令和3年度 2 7 6 集

I 主題設定の理由

障害のある人もない人も、基本的な人権を生まれながらにもっており、「障害者権利条約」にあるように人権を大事にすることが世界で掲げられている。平成24年7月23日中央教育審議会初等中等教育分科会における、特別支援教育の推進（報告）より、「『共生社会』とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である」と掲げられている。

本県では、第2期群馬県特別支援教育推進計画（平成30年2月）において、「子ども同士が多様性を認め合える学級経営から、障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ環境を整えることが必要であり、子ども一人一人の自己有用感や自己肯定感を高めた上で、一人一人の違いや多様性を認め合えるような学級経営や、特別支援学級や特別支援学校との交流及び共同学習に積極的に取り組むような学級経営が一層求められる」とあり、第3期群馬県教育振興基本計画（2019年度～2023年度）基本施策の中では、「共生社会の構築に向け、障害のある児童生徒とない児童生徒との交流及び共同学習を組織的、計画的に進め、相互理解を促進する」と明記されている。

共生社会を目指した交流及び共同学習の構築にあたり、具体的にどのように行うのか各学校の現状に合わせて考える必要がある。学校では、特別支援教育コーディネーターが指名されており、学校組織の中心となり特別な教育的ニーズのある児童生徒へ適した学習活動を提供していくことが望まれる。特別支援教育コーディネーターの役割は学校教育の中で大きいと感じる。中央教育審議会の「特別支援教育コーディネーターの指名と校務分掌への位置付け（1）特別支援教育コーディネーターの役割」によると、「特別支援教育コーディネーターは、学校内の関係者や外部の関係機関との連絡調整役、保護者に対する相談窓口、担任への支援、校内委員会の運営や推進役といった役割を担う」と明記され、担任への支援をし、特別支援教育の充実を図ることが求められている。さらに、群馬県教育委員会特別支援教育課発行「学校サポートパッケージVer.04」（令和3年3月）では、校内の教職員との連絡調整、担任への支援等が求められている。

以上のことから、小学校において共生社会に向け、児童の多様化が見られる学校教育で行えることの一つは、交流及び共同学習をより充実させていくことだと考える。通常学級においては特別支援学級児童と共に学習活動ができるように、親和的な学級づくりや誰もが分かりやすい授業づくりをしていくことが必要となる。それと同時に、特別支援学級児童が自分らしさを発揮して授業に参加するために、特別支援学級児童を多面的に捉えることが望まれる。そのためには、受け入れる通常学級担任が特別支援学級児童の実態を理解し、具体的な支援を行うことが欠かせない。また、特別支援学級担任は、特別支援学級児童の特性や特別支援学級での様子を発信していくことが望まれる。特別支援教育コーディネーターが、特別支援学級と通常学級のつなぎ役となり、連携を取りやすくするために、特別支援学級児童のつまづきが分かるシートや授業に必要なとされる手立ての基本を取り入れる授業づくりシートを提供していくことで、特別支援学級児童に必要な支援を講じることができ、特別支援学級児童は、学習活動の困難さが減り、通常学級でできることが増えると考えられる。さらに、できることが増えていくことで、特別支援学級児童が安心して自分らしさを発揮して学習に取り組むことができる。この関わりを重ねていくことが、通常学級児童と特別支援学級児童とが互いに認め理解し合う気持ちにつながると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

通常学級児童と特別支援学級児童との交流及び共同学習において、特別支援教育コーディネーターが、「心のつぶやき伝えるシート」を基に、特別支援学級児童の実態に応じた具体的な支援や授業に必要とされる手立ての基本を取り入れた授業づくりを提案する。その提案を通常学級担任が実践する

理解し合う気持ちをもつことを学ぶことができると考える。

(3) 「特別支援教育コーディネーターがつなぐ支援体制づくり」とは

特別支援教育コーディネーターには、いくつかの役割がある。その中に、担任への支援が挙げられ、児童の実態に応じた具体的な支援の方法を伝えていくことが重視されている。本研究では、特別支援教育コーディネーターが、通常学級と特別支援学級をつなぎ、双方の担任が、特別支援学級児童について共通理解を図り連携しながら授業が進められるよう支援づくりをしていく。さらに、教師間のつながりを考えながら、学校全体で取り組むための方向付けをすることで、交流及び共同学習を推進していくことができると考える。

2 手立ての説明と教材の概要

本研究では、通常学級児童と特別支援学級児童が共に学ぶための機会を設定し、有用な関わりを通して、互いに認め理解し合う気持ちをもつことを育成する。そのためには、特別支援学級児童が個々に感じる困り感や授業におけるつまづきを把握した上で、日々の関わり大切さや通常学級での授業づくりの工夫をしていくことが必要である。友達との関わり方を学ぶために互いを意識できるような場面づくりをすること、具体的な支援を知った上での教師の働き掛けと児童同士の学び合いを取り入れた授業づくりは、効果的である。

また、日々の交流を行いながら、特別支援学級児童一人一人の「心のつぶやき伝えるシート」を活用して、児童の実態を適切に把握することが、適切な支援をするに当たり大切である。交流する場面と並行しながらシートを活用し、共同学習の場面へと活かしていくことが望まれる。

本研究においては、体育の授業（運動会の内容）を取り上げる。その理由として、体育は、ペアやグループ、全体の動きなど協力して活動することができる集団での学習であり、集団ならではの経験を味わいやすい。このことより、相手を意識した適切な関わり方を学ぶことができ、児童同士の交流と共同学習につながると考える。さらに、運動会に焦点を当てた理由として、運動会は特別な日であり、どの児童も自信をもって参加したいという思いがある。そのため、通常の体育とは異なる動きが入る運動会練習では、苦手なことへの対応をどのようにしていけばよいのかを教師同士で話し合い、理解し実践していくことが大切なことを明らかにできると考えた。

特別支援学級児童の中には、通常学級で学習することに抵抗を示す児童がいる。そのような児童にとって、授業に参加することは大きな壁があるため、予定変更の有無や気持ちの切り替えにかかる時間等、授業以前に講じなければならない手立てがいくつかある。教室に入りやすい環境、興味・関心のある活動、一度経験したことがありできそうだと思う活動等、さらに、自分を受け入れてくれる人的環境を整えるための配慮などが欠かせない。これらのことを踏まえ、児童同士がよりよく関わるための交流の場を設定し、関わり方を学び、互いを意識し、相互理解へとつなげたい。

特別支援学級児童の実態について、教師間での共通理解を図り、具体的な支援と共に段階的に通常学級での学習に参加することを進めながら通常学級の授業が受けられるようにしたい。授業においては、誰もが分かりやすい授業を構成し、さらに、個に応じた合理的配慮を取り入れることで、どの児童も授業に参加し学ぶことができる共同学習へとつなげていく。これらを支援するために、特別支援教育コーディネーターが以下のツールを提供する。

(1) 「心のつぶやき伝えるシート」の活用

交流及び共同学習を学校で実践するためには、個々の実態を的確に把握した上で、より分かりやすい授業づくりを構成することが求められる。交流及び共同学習は、同じ場所で同じ学習活動を行うことが目的であるが、特別支援学級児童は、一人一人が何らかのつまづきを抱えていることがあり、通常学級でねらいに向けた学習活動を行うことが難しい状況が見受けられる。児童が授業や生活のつまづきに気付くことや自分ができていることを自分自身で把握することは、学校生活を送る上で大切である。特別支援学級担任が、「心のつぶやき伝えるシート」を基に聞き取りを行い、授業参加に向けてどのような思いがあるのか、丁寧に質問をしながら再確認することで、具体的な支援が見えてくる。また、児童のつまづきを特別支援学級担任と通常学級担任、さらに、児童に関わる教

師が知ることで適切な働き掛けをすることができる。その働き掛けが教室に居る児童に反映されることで児童同士の関わりが増え、特別支援学級児童は通常学級でできることが増えてくることが考えられる。「心のつぶやき伝えるシート」を活用することで、授業への参加促進となり、交流及び共同学習が推進され则认为る。

(2) 「つぶやき分析シート」からの「授業の基本シート」を基にした授業づくり

「つぶやき分析シート」（図2）は、特別支援学級児童が通常学級の授業に参加するとき、どのようなことを意識して対応していけばよいのかを分析するシートである。特別支援学級児童について実態を把握した「心のつぶやき伝えるシート」を基に、特別支援教育コーディネーターが特別支援学級児童の実態を分析し、授業に参加するために必要な具体的な支援を記入する。この分析シートは、聞き取った特別支援学級児童のつぶやきを教えてもらいながら進めて行くことが望まれるため、特別支援学級担任と支援について考えていくことも必要である。

「つぶやき分析シート」から、授業構成のどの場面でどのようなつまずきがあり、どう支援を行うのかを「授業の基本シート」（図3）に記し、通常学級担任へ渡す。このシートは、特別支援学級児童が通常学級の授業に参加するにあたり、活動場面ごとによる手立ての基本が記入されている。これは、授業で意識してほしい内容であり、全部で21項目の内容を記載している。指導案には、活動場面ごとに意識してほしい項目を入れ、教師が指導の中で働き掛けられるように記載している。「授業の基本シート」にある手立ての基本は、小貫悟氏の「授業のユニバーサルデザインのモデル図」を基にしている。教師が児童のつまずきにに応じて、働き掛け方を工夫することにつなげることが目的である。さらに、通常学級担任が見て、すぐに分かるようにシートの工夫を行った。これらのシートを活用することで、教師の働き掛けが変わり、特別支援学級児童が授業に参加しやすくなる。また、授業に参加することで、友達との関わりも増えてくる。通常学級児童と同じ場所で学習活動を共にすることで、互いに認め理解し合う気持ちが育まれるとされる。

(3) 通常学級と特別支援学級学級の児童が日常的に行える交流

日常的な交流活動を実践するために、特別支援教育コーディネーターの働き掛けにより、各学級で意図的に日常的な交流活動を行うことが必要だと考える。日常的な交流活動を積み重ねることで、双方の児童が関わりを増やし、互いがどのように関われば一緒に活動ができるのかを考える機会となる。日常的な交流活動を通して、特別支援学級児童と通常学級児童一人一人が相手を理解しようとする気持ちや支え合おうとする意識を高めていく。そのために、通常学級の朝の会にWeb会議システムで参加、行事に向けた特別活動の実践、特別支援学級児童から通常学級へ発信した活動、通常学級の「いいところ探し」等、特別支援教育コーディネーターが提案をしていく。

※特別支援教育コーディネーター用			
『つぶやき分析シート』			
教科「 」()年()組 単元「 」			
手順 1 心のつぶやき伝えるシートから児童がどの場面つまずきを感じているのかを把握する。 2 場面の何がつまずきとなっているのか、項目を絞り、下記の個人のつまずき欄に記入する。 3 右表（具体的な支援例）を参考に個々に応じた支援を記入する。			
児童名	児童名	児童名	児童名
心のつぶやきシートより （つまずきや目標を記入）			
活動場面	配慮すること		
授業前（参加する） 導入			
状況理解の困難 見通しのなさへの不安 関心のムラ 不注意・多動 二次障害 暑さ寒さへの対応 など			
展開（理解する）			

図2 つぶやき分析シート

授業の基本シート（特別支援学級児童の支援ヒント）			〔特別支援教育コーディネーターが児 ○○○学級()組 ()年()組〕
	活動の流れ	手立ての基本	教師の働き掛け ○全体に関わること ◎児童への配慮【 児童名 】
授業前	「どのように準備するか」 ●学習の準備 ・授業を受けときの ルールの統一	☆学級内の相互理解 （学級内の理解促進） （個々の目標確認） ☆肯定的な雰囲気づくり ☆刺激量の調整 （人間関係）（教室環境）	
導入	「何を学習するか」 ●準備運動 ●全体計画の説明 ●本時の流れ ●前時の動きの確認 など	☆授業の共有化 （全体で活動するためのルール） （授業のパターン化） ☆学習環境の構造化 （場や時間の設定） ☆肯定的な雰囲気づくり ☆情報提供の工夫	
展開	「どのように学習するか」 「なぜ学習するか」 ●めあての確認 ・どこまでやるのか確認	☆学習内容の焦点化 ☆共通課題の設定 ☆ポイントやコツの動きを 言語化 （児童が理解しやすいように）	

図3 授業の基本シート

3 研究構想図



IV 研究の計画と方法

1 実践の概要

○児童の概要（通常学級6学級と情緒障害学級児童11名、肢体不自由学級1名）

研究協力校（以下、協力校）特別支援学級児童の1名は、運動制限のため参加できないこともあるが、参加できる種目でも躊躇している様子が見られ、見学をしているときもある。肢体不自由の児童は、日常生活動作や行動上に困難、制限があるため、できないと思われる運動は参加していない。数名は、通常学級での授業に参加したいけれど、気持ちを切り替えることが難しく、行けないことが多くなっている。児童の中には、動きの理解ができず混乱し自信をもてず練習に参加できなくなることや授業前に友達とのトラブルがあり授業に参加できなくなるケースがあるが、事前の声掛けや活動内容を伝えておくことで防げる様子が見受けられることもある。

(1) 特別支援学級児童に関する教員への実態調査

日時	対象	内容
令和3年7月12日（月）～21日（水）	研究協力校教員32名	・特別支援学級児童が通常学級でどのように過ごしているのか。児童同士の関わりはどの程度なのか。特別支援学級担任と通常学級担任の連携はどのように実施されているのか。これらのことについて、教員にアンケートを行う。

(2) 特別支援教育コーディネーターの支援体制づくりについて

① 交流活動

ア 朝の会にWeb会議システムで参加

日時	対象	内容
朝の会	情緒学級児童 (多人数の中で 参加することが 苦手な児童)	・通常学級と特別支援学級を Web 会議システムでつなぐ。あらかじめ担任同士が接続する時間を設定し、互いにつなぐ。通常学級の朝の会に特別支援学級児童が参加し、一日の予定や出欠を確認する。

イ 日常的に関われる場の設定

日時	対象	内容
教室移動に伴う 教科	通常学級児童 情緒学級児童	・授業の誘いや課題の受け渡し等が行えるように、連絡係を配置する。特別支援学級児童と通常学級児童が関わる回数を増やすなど、意図的に教師が場の設定をし、関わりを充実させる。

ウ 特別活動「運動会に向けて自分の思いを伝えみんなの思いを感じ取ろう」

日時	対象	内容
令和 3 年 10 月上旬	研究協力校 第 5 学年 79 名 第 6 学年 94 名 特別支援学級児童 12 名	・運動会練習前に、スローガンを確認し、みんなの意気込みを知り、クラスのみんなへ応援メッセージを送ることで、全員で取り組もうとする意欲を育てる。

エ 特別支援学級児童による運動会に向けた応援メッセージづくり

日時	対象	内容
令和 3 年 10 月 1 日 (金) ～22 日 (金)	5・6 年児童 173 名 全教員 32 名	・特別支援学級児童が全校児童へ、運動会に向けた応援メッセージの活動を手掛けられるようにする。自分たちが企画したことに対して、全校児童が参加してくれることの嬉しさを感じ、行事への意欲につなげるようにする。

オ 通常学級の「いいところ探し」

日時	対象	内容
令和 3 年 10 月 中旬	通常学級	・特別支援学級担任が通常学級を観察したり、通常学級の担任から聞いたりして、通常学級のよいところを探す。それを基に、特別支援学級児童と話しながら、通常学級の雰囲気を感じ取り、安心感をもてるようにする。

カ 協力校教員への聞き取り

日時	対象	方法
令和 3 年 11 月 1 日 (月) ～12 日 (金)	研究協力校教員 32 名	・特別支援学級児童と通常学級児童をつなぐための交流活動は、特別支援学級児童との関わりを深めるために有効だったか。特別支援学級児童がどのような活動をしているのか、また、特別支援学級児童に声を掛ける手段として有効だったか。これらのことについてアンケートを行う。 ・授業実践後、通常学級担任に授業の基本シートについて、やりにくさやよかったところ等を聞き、改善していく。

② 共同学習

ア 心のつぶやき伝えるシートの作成・活用

日時	対象	内容
令和 3 年 10 月 上旬	情緒学級児童	・「心のつぶやき伝えるシート」は、自立活動や特別支援学級児童が落ち着いて取り組める時間に実施する。また、児童によっては、状況に応じて、2、3 回に分けて実施する等、工夫する。心のつぶやき（本音）が聞き取れるように、落ち着いた環境で、リラックスしながら行えるような雰囲気の中で個別に実施する。

イ つぶやき分析シートの作成・活用

日時	内容
令和 3 年 10 月 上旬	・「心のつぶやき伝えるシート」からつまづきを見取る。授業に参加するにあたり配慮すべきこと、また、日常の様子から感じ取れることも考慮しながら、「つぶやき分析シート」に記入する。

ウ 授業の基本シートの作成・活用

日時	内容
令和 3 年 10 月 上旬	・特別支援教育コーディネーターが「つぶやき分析シート」を基に、「授業の基本シート」を作成する。それを基に、通常学級担任が授業の実践を行う。 ○授業実践の概要（指導案については資料） 〈対象〉研究協力校 第 5 学年 79 人 第 6 学年 94 人 特別支援学級児童（12 名） 〈実践期間〉令和 3 年 10 月中旬 7 時間（予定）

	<p>〈単元名〉運動会練習「組み体操」</p> <p>〈単元の目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組み体操の全体の動きの変化を理解し、一つ一つの動きの特徴を捉え技に取り組むことができる。 (知識及び技能) ・一つ一つの動きの課題について互いに見せ合い、よくなったところを自分の考えで伝えることができる。 (思考力・判断力・表現力) ・活動する場や身体の安全に気を配ること、互いの技の仕上がりを認め合い励まし合うことができる。 (学びに向かう力・人間性等)
--	--

エ 協力校教員への聞き取り

日時	内容
令和3年11月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の基本シートを活用したことで、どのように授業を進めることができたのかを通常学級担任に聞き取りを行う。 ・特別支援教育コーディネーターが、心のつぶやき分析シート、授業の基本シートを作成したことで、よかった点や改善点についての聞き取りを行う。

2 検証計画

(1) 教師の意識について

検証項目	検証の観点	検証の方法
特別支援学級児童への教師の意識の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級児童の状況を教師一人一人が再確認することで、教師は日常的に特別支援学級児童に意識して関わることや特別支援学級担任と連絡を取り合い授業参加に向けた工夫を考え、実践しようとするきっかけづくりとなったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協力校教員へのアンケート

(2) 特別支援教育コーディネーターの支援体制づくりについて

① 交流活動

検証項目	検証の観点	検証の方法
仲間意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級での朝の会に参加することで、通常学級に参加してみようというきっかけづくりや双方の児童が仲間意識を高めることができたか。 ・特別活動での運動会に向けた学習活動は、一人一人の思いや頑張りを知ることで互いを理解し、励ましの言葉を掛け合おうとする場づくりとして有効であったか。 ・授業の誘いや課題の受け渡し等を行う連絡係を配置したことは、特別支援学級児童と通常学級児童が日々の関わりを充実させるために有効であったか。 ・特別支援学級担任が通常学級のよいところの情報を集め、特別支援学級児童に伝えることは、通常学級の見方を共有し、授業参加への促進につながることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Web 会議システムを使用しての朝の会の様子を観察 ・双方児童の関わりについての行動観察 ・通常学級の「いいところ探し」シート ・5・6年担任からの聞き取り

② 共同学習

検証項目	検証の観点	検証方法
「心のつぶやき伝えるシート」の有効性について	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のつぶやき伝えるシート」を使用することで、特別支援学級担任と通常学級担任が連携しやすくなったり、特別支援学級児童が参加しやすい状況を作ったり、さらに、特別支援学級児童についての実態をより明確に把握することにつながったか。 ・「心のつぶやき伝えるシート」が交流及び共同学習の充実において有効だったか。 ・「つぶやき分析シート」を使用することで、特別支援教育コーディネーターは、個々に合った具体的な支援を考察することができたか。 ・仲間意識や所属感が高まる交流や運動会練習を通して、運動会に参加しようとする気持ちをもつことができたか。 ・教師の働き掛けが変化することで、児童が授業に意欲的に参加もしくは、参加しようとする意識へと変容し、交流及び共同学習の推進へとつながったか。 ・「授業の基本シート」は、通常学級担任が授業を構成する際に、児童が参加しやすくなるような働き掛けを意識して行うことにつながったか。 ・運動会練習を通して、特別支援学級児童と通常学級児童が互いを意識し関わろうとすることにつながったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シートを使用することで、特別支援学級児童が授業に参加しやすくなったかの見取り ・特別支援学級児童が運動会練習に参加する回数と運動会当日の児童の行動観察 ・特別支援教育コーディネーターからの聞き取り ・特別支援学級担任と5・6年担任から、連携や働き掛け方、児童の授業参加状況の聞き取り ・研究協力校教員へのアンケート ・特別支援学級、通常学級の児童の変容

V 研究の結果と考察

1 教師の意識についての実態調査

「特別支援学級児童に関する教師の意識についてのアンケート」

(1) 実践

アンケートは、全職員へ実施した。回答の内容によっては、記述する欄を設け日常感じる教師の思いや考えを聞くようにした。(32名中27名の教師から回答を得た。)

○学習に関すること

特別支援学級と通常学級の連携	設問：話し合う時間がとれているか。 回答 いいい (17名) (時間がなかなかとれず、2～5分程度) 設問：通常学級で授業をしているとき、対応に戸惑った場合どうするか。 回答 特別支援学級担任を呼ぶか、放課後に相談をしている。(8名)
授業に参加するための工夫	回答 特別支援学級児童が参加するにあたり、個々に応じて声掛けや全体の指示後に確認をするなど対応をしている。(16名)

○学習外に関すること

通常学級児童から特別支援学級児童への関わり方	回答 通常学級児童が意識的に特別支援学級児童の出欠を確認したり、自分から話し掛けようとしたりする場面は少ない。(16名) 回答 特別支援学級児童が特別支援学級でどのような学習活動を行っているか知らない児童が多い。(24名) 回答 休み時間は、児童同士が遊んでいる様子が見られるときもある。(19名)
教師の意識について	設問：特別支援学級でどのような活動をしているのか知っているか。 回答 だいたい知っている。(特別支援学級担任以外27名中13名) 設問：特別支援学級担任から学校全体へ活動の様子を発信しているか。 回答 学校全体への発信はない。(特別支援学級担任5名中4名)

(2) 考察

特別支援学級と通常学級の担任による連携について、日々の業務の中で話し合う時間が十分に取れず、具体的に細かな話まですることができないことが分かった。話し合う時間を設定しなくても共通理解が図れるものがあれば、より連携がスムーズになることが考えられる。

通常学級の授業の中で対応に戸惑った場合、特別支援学級担任を呼ぶ、という回答を得られたが、このような状況のとき、事前に対応策を準備しておくことができれば通常学級担任はすぐに対応ができ、特別支援学級児童は、通常学級に参加しやすく授業が受けやすくなるのではないかと考える。

通常学級に行くことができず、通常学級で学習ができない場合、それでも互いを知り、理解できる環境を設定していくことが必要であると考え。さらに、通常学級からの関わりを求めるだけでなく、特別支援学級から関わりを発信することで、児童も教師も互いに声が掛けやすくなり、相互理解につながるのではないかと考える。

以上のアンケート結果を基に特別支援学級と通常学級がつながる手立てを考え検証を進める。

2 特別支援教育コーディネーターの支援体制づくりについて

(1) 交流活動

互いに認め理解し合う気持ちを育成するためには、日常の交流活動が大切になると考える。まず、仲間意識の醸成について考察する。

① 朝の会に Web 会議システムで参加

○ 実践

行った活動の概要	活動に取り組む児童の姿
<ul style="list-style-type: none"> 通常学級の朝の会に参加することが難しい児童が、特別支援学級で Web 会議システムを使って実施 時間になると双方がタブレットを接続し、朝の会に参加 出欠や1日の予定を確認(授業変更の連絡) 	<ul style="list-style-type: none"> Web 会議システムを継続する中で、始めは、通常学級担任の問い掛けに応えられなかったが、繰り返すうちに笑顔になり、手を振られたら振り返すことやうなずくことができるようになった。 予定変更があると切り替えが難しい児童にとって、授業に行けなくなることを防ぐために、朝の時点で予定を聞くこと

・会話をしたり、手を振ったりしながら関わりを深める	で、不安材料が軽減されたということが分かった。 ・接続ができず朝の会に参加できなかったときは、見通しをもてなくなる様子が見られた。
担任の見取り、授業後の変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・Web 会議システムを使用することで特別支援学級児童との関わりが増えた。 ・肢体不自由学級の児童は、呼び掛けると笑い楽しそうだった。 ・ビデオをオンにすると視線が気になりオフで行ったが、その後は、Web 会議システムを使用できなかった。 	

○ 考察

通常学級に行きたいけれど、自分からはなかなか行けないという思いを抱えている児童に、少しでも通常学級の様子を知ってもらうことができたと言える。日によっては、通常学級で学習することがなく行かない日もあるため、朝の会で Web 会議システムを使うことは双方学級をつなぐために有効であったと言える。

② 特別活動「運動会に向けて自分の思いを伝えみんなの思いを感じ取ろう」

○ 実践

行った活動の概要	活動に取り組む児童の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・運動会行事を成功させるために、学級全員が一つの目標に向かって取り組み、意欲を高める。 ・特別支援教育コーディネーターが通常学級へ運動会に向けて「各学級の友達や団に送るメッセージ」の作成を依頼する。 ・ワークシートの応援旗に応援メッセージを書き、応援旗に色を塗り完成させる。 ・学級ごとに模造紙に貼り掲示する。 ・各学級に在籍している特別支援学級児童が通常学級で一緒に行えるように、双方担任が働き掛ける。 	<p>○特別支援学級児童 通常学級と一緒に描ける児童もいれば、その時間に行けず、特別支援学級で描いて通常学級まで行って貼ることができた児童もいた。通常学級になかなか行けない児童にとっては、参加するきっかけとなったようである。</p> <p>○通常学級児童 児童が楽しそうに取り組んでいた。掲示することで、たくさんの児童が友達のメッセージを読むことができ、特別支援学級児童を交えた一人一人の思いを感じ取ることができたようである。</p>
担任の見取り、授業後の変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・目的がはっきりしていて取り組みやすかったようである。 ・通常学級で行うことが難しい場合は、通常学級担任から用紙をもらい、特別支援学級で記入することを可能にしたことで、取り組むことができた。仕上がったものは、自分から通常学級の担任に渡せるように特別支援学級担任が促したが、渡すことができなかった。 	

○ 考察

特別支援学級の児童は、教科の内容によって苦手意識が働き、通常学級に行き同じ場所で学習活動することに抵抗を示す児童がいる。特別支援学級の児童が授業に参加するためには、目的がはっきりしていて、おおよその学習内容が分かることで一緒に取り組むことができると考えられる。それぞれが参加できる方法で取り組むことで、通常学級児童との仲間意識を感じることができたのではないと思う。また、特別支援教育コーディネーターが提案することで、学級ごとに偏らず、2 学年が同じ活動を通して一体感を出し、同じ目的に向かって仲間を意識しながら取り組もうとする意欲付けにつながったということが考えられる。

③ 特別支援学級児童による通常学級へ運動会に向けた応援メッセージづくり

○ 実践

行った活動の概要	活動に取り組む児童の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターが、特別支援学級児童発信の活動（応援メッセージづくり）を依頼する。 ・玉入れのカゴ（赤白）、運動会応援メッセージの文字、応援メッセージカード入れを特別支援学級で分担し、作業する。 ・メッセージカード入れに入っているか確認し、カードを貼る作業をする。 ・対象は、全校児童、全教員とするが、任意で行う。 ・無記名も可とする。 	<p>○特別支援学級児童 日が経つごとにメッセージカードが入っているか気になり確認する様子が見られるようになった。メッセージカードが入っていると嬉しそうに中から取り出し貼っている様子が見られた。</p> <p>○通常学級児童 学級全体を温かくする雰囲気づくりとしても効果的だと感じ、時間を設定して取り組んだり、休み時間を使って書いたり等、学級の実態に応じて工夫することで、児童が積極的に取り組むことができた。</p>
担任の見取り、授業後の変容	

- ・メッセージの内容を読んで友達の思いを知ることができ、笑顔になっている様子も伺えた。特別支援学級児童の様子から仲間を意識することのきっかけになったと感じる。
- ・運動会コーナーを見て、応援メッセージを書きたいという通常学級児童がたくさんいた。

○ 考察

特別支援学級児童が自分たちで準備し、みんなに発信する機会は少ない傾向がある。日常の授業でも、普段、通常学級になかなか行けない児童は、時々行くとどうしてよいのか分からなくなり、友達から声を掛けられてもどう対応したらよいのか戸惑っている様子が見られる。受け身ではなく、自分たちが行動を起こすことを経験することで、学校生活で自信をもって取り組むことが増えてくるのではないかと感じる。無理のない程度に特別支援学級児童全員が参加できるこのような機会を特別支援教育コーディネーターが設定し、先生方から協力を得て継続して取り組んでいくことが、交流を活性化していくのだと考える。特別支援学級担任は、通常学級児童と特別支援学級児童が関わる必要性を感じ、また、特別支援学級の様子を各学級へ発信していく必要があると思っているが、どう発信すればよいのか迷っている様子が見受けられた。そこで、双方をつなぐ特別支援教育コーディネーターが全体へ投げ掛けることで、特別支援学級全体で活動に取り組めるので、やりやすさを感じられたという意見を聞くことができた。双方児童が関われるようになるためには、更に工夫することが必要である。

④ 通常学級の「いいところ探し」

○ 実践

行った活動の概要	活動に取り組む児童の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級担任が通常学級のよいところを探し、ワークシートに記入する。 ・ワークシート記載の、「生活の様子」「学習の様子」「学級活動の様子」「学級の雰囲気」の四つの項目で観察する。 ・特別支援学級児童が「こんなことを知ったら行きやすくなるかな」「この情報を知っておくと安心するかな」等、特別支援学級児童が知ること、プラスになることを伝えられるようにする。特別支援学級担任は、通常学級担任からも「いいところ」を聞くようにする。いろいろな方法で「いいところ」をたくさん探し、特別支援学級児童が引き付けられる情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級の「いいところ」を特別支援学級児童に伝えようと、特別支援学級担任が見取った「いいところ」についてうなずく場面が多かった。それに対しての返答はなかった。 ・通常学級に行くことができない児童に、「いいところ」の話をすることは抵抗があり、話をすることができなかった。
担任の見取り、授業後の変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・「いいところ探し」をすることで、具体的に話をすることができ、特別支援学級担任と特別支援学級児童で改めて通常学級について考えるいい機会となった。 ・「いいところ探し」を特別支援学級担任が特別支援学級児童に伝えているとき、表情やうなずきから、通常学級に行ってみたいという気持ちを表してくれた。 	

○ 考察

通常学級の「いいところ探し」を実施してほしいとお願いしたとき、「今までしたことがない」という返答があった。最初は、戸惑いがあり、通常学級に入って観察することに抵抗があったようであるが、数回行くうちに通常学級の雰囲気を知り、さらに、通常学級児童からの話し掛けがあり入りやすくなってきたという感想があった。また、通常学級担任から話を聞くことで、これまで見えなかった様子を知ることができ、連携が取りやすくなったようである。特別支援学級児童は、知らないことを不安に感じることもあるため、通常学級の様子を特別支援学級担任から聞くことで、見通しをもつことができ、通常学級の「いいところ」を感じることで、授業への参加がよりしやすくなったのではないかと考える。

(2) 共同学習

① 心のつばやき伝えるシートの作成・活用

○ 実践

行った活動の概要	活動に取り組む児童の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級担任が特別支援学級児童にチェックシートに基づいて聞き取りを行う。 ・文章の意味が伝わりにくいときは、日常に起こりそうな場面を伝えながら想起できるようにする。 ・実態に応じて、全項目の聞き取りを実施するかどうかを判断し行 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックシートを自分でやると言い、設問を読みながら自分で答えていた。 ・設問の意味が分からず、答えに戸惑っていた。 ・量が多く、数回に分けて実施した。

う。 ・児童が質問の中で伝えてくる言葉をキャッチし、心のつぶやき（本音）について引き出せるようにする。 ・特別支援学級児童が自信をもち、プラスの言葉掛けができるように、「できること（得意なこと）」を聞く。	・項目が多かったので、答えやすそうな項目に絞って行った。 ・特別支援学級児童が経験したことのないこと、考えたことのないことは答えにくさがあった。
担任の見取り、授業後の変容	
・一対一で児童と向き合うことで、児童の気持ちを引き出すことにつながった。 ・普段のやり取りでは聞き出せなかった。 ・本音を聞き出すきっかけになった。	

○ 考察

学校生活や学習活動でのつまずきを本人が気付くこと、また、担任が本音を把握することで、いろいろな手立てが考えられるようになる。日常の児童の様子から読み取ることは、客観的な情報でしかなく本児の気持ちまでは難しい。担任が思っていたこと、感じていたことと一致する部分、または、一致しない部分が見えてくる。さらに、聞きながら同意をしたり質問をしたりすることができ、会話のやりとりができる。その反面、設問が 54 問あるため、集中が持続しない児童には大変さがあったようである。設問の改良をする必要がある。

通常学級担任と連携を取るときにも、シートがあると短時間で特別支援学級児童を把握することにつながる。ポイントとなるところに印を付けておくことで、さらに、把握が簡単にできる。双方学級担任の共通理解として活用できるシートになるということが考えられる。

② つぶやき分析シートの作成・活用

○ 実践

行った活動の概要	特別支援教育コーディネーターの見取り
・「心のつぶやき伝えるシート」を基に、特別支援教育コーディネーターが特別支援学級児童の学習活動のつまずきを分析する。 ・適切な支援を考え、通常学級の授業で活かせるように通常学級担任へ提供する。	・設問が多く、チェック項目を一つ一つ確認しながらというよりも、時間があまり取れない時は、普段の様子を思い出しながら支援を考え書くこともあった。 ・具体例から選ぶとすると時間がかかる。 ・特別支援教育コーディネーターだけでは、負担を感じる。 ・時間に余裕があり、特別支援学級担任と検討する時間があれば、より具体的な支援が考えられると思う。

○ 考察

誰が特別支援教育コーディネーターを任されても、特別支援学級児童が通常学級で同じように学習ができるような支援を考えることができるように、シートの中に具体的な支援例として載せている。しかし、熟練した特別支援教育コーディネーターは、おおよそ児童の実態を把握していれば、支援例を参考にしなくても書ける場合もあるので、支援例のないシートも準備をしておくことが必要であった。学習活動に必要な具体的な支援を考えていくが、日常生活の中で、特別支援学級児童が、「気になることをされたり言われたりすると問題行動に発展する」ということがあれば、そのことについても、追記できるように記入欄を設けることが必要であると考えられる。

「心のつぶやき伝えるシート」だけでは、特別支援学級児童の実態を全部理解するまでには至らないことが、実施後の意見にあった。通常学級担任は、児童に適した対応を知ることが求めているため、「つぶやき分析シート」で、特別支援教育コーディネーターが分析することは、通常学級担任にとっても特別支援学級児童にとってもプラスになる情報源となる。特別支援学級児童が通常学級で学習活動を落ち着いて行えるようにするために、つぶやきを分析し支援を考えることは、授業参加へとつながることが考えられる。

③ 授業の基本シートの作成・活用

○ 実践

行った活動の概要	活動に取り組む児童の姿
特別支援教育コーディネーターは、以下のことを重点に考え、シートに記入した。 ・授業中に教室へ戻ることがないように、場所、持ち物、服装等の確認を必ず行う。連絡児童を決めるか、担任が声を掛ける。 ・周囲の友達（関係性が良好な児童）が声を掛けてくれる位置、手本となる友達がいる近くに座席を固定する。	○特別支援学級児童 運動会練習になかなか行けなかった児童が練習に参加できた。 ○通常学級児童 どのように動いてよいのか分からない特別支援学級児童に「こっちにお

・動きのイメージがしやすいように、「右に回ってジャンプジャンプ ジャンプ」など具体的な言葉掛けをすることで動きやすくなる。	いで」の合図と声を掛けていた。
担任の見取り、授業後の変容	
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級児童が通常学級に授業を受けに行ったときに困らないために、共通理解を図ることで安心して授業に行けるようになる。 ・児童によっては、授業への参加方法が異なる場合があるため、チャイムと同時に始められる児童、切り替えの難しさから遅れてくる児童にも対応することができる。 ・5・6年生が対象となっているため、学年ごとに1枚のシートに特別支援学級児童のポイントを記入した。1枚のシートに示されていることは、授業の際に持ち運びができるが、たくさんの情報が書いてあるので見にくさがあった。 ・支援というよりも、児童が問題行動へとつながってしまう言動がシートに書いてあるとよい。 ・児童によって苦手とする授業への参加のときは、このシートがあれば、何かあったときに思い出し、対応できるかもしれないのであるとよい。 	
改善点	
・特別支援学級担任と特別支援学級児童が通常学級で授業を受けるときのルールや約束ごとを記入できる欄があると、通常学級に来たときに声が掛けやすくなる。	

○ 考察

合同運動会練習には、担任だけではなく、他学級担任、支援員が入ることがある。そのため、授業に関わる全ての教師たちが同歩調で支援ができるようにする必要がある。実践では、特別支援教育コーディネーターが通常学級担任とこのシートを基に体育の授業について話すことで、通常学級担任は、どのように授業を進めていくことが分かりやすい授業づくりへとつながるのかを考えるきっかけづくりとなった。また、特別支援教育コーディネーターが、授業の基本シートを提供したことで、特別支援学級児童への支援や手立ての基本の欄を参考に、教師が働き掛けを意識したり、工夫したりする様子が見られるようになった。このシートを活用することで、授業を進めるにあたり、全体で取り組むためのルールを意識しながら取り組むことができ、分かりやすい授業へとつながっていきこうとする様子が見られた。さらに、教師の意識が変容することで、特別支援学級児童と通常学級児童の関わりが少しずつ増えていくことが分かった。対応を統一することで、特別支援学級児童が落ち着いて過ごすことができたと考える。

④ 協力校教員への事後調査

○ 実践

実践前に行ったアンケートより、特別支援学級で特別支援学級児童は、どのような活動をしているのかということが、学校全体で周知しているという結果が低かった。そのため、全校で取り組んだ「運動会応援メッセージ」と取組についてのアンケート結果を以下に示す。

有効だった点	<ul style="list-style-type: none"> ・行事でこのような機会を設けることで、学校全体で一つのもを作り上げる、みんなで協力するよい場なので、特別支援学級児童と関わるきっかけにつながると思う。 ・他学年、他学級の児童との交流があることで、嬉しさを感じている児童がいると思う。学級だけに留まらず、このような機会はきっかけになると思う。 ・通常学級に入っていない児童は、協力学級の児童もあまり同じクラスの仲間という気持ちが薄いような気がするので、活動をきっかけに担任も声が掛けられるのでよい機会だと思う。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級児童がまとめる、集めるなど、直接のやり取りがあったほうが関わっている、関わったと感じると思う。 ・行事前は、バタバタしてしまい作ることに集中してしまい、考える余裕がなかった。見通しをもって取り組むことができれば、関わることの大切さを伝えながら活動ができると思う。

○ 考察

以上の結果に加え、「募集する際に、特別支援学級からということ伝えるか伝えないか」ということが話題になった。伝えることがどういう意識の変化につながるのか、伝えることで意識し、それが逆効果になるのではないかと、特別支援学級児童でも通常学級児童でも関係なくみんなでという意識で行えば、自然に協力ができるのではないかと意見があった。特別支援学級児童の中には在籍していることを意識してほしくないという児童もいる。そのような中で、通常学級担任は、どのように伝える事で一緒に取り組むことができるのかを考えて伝えていた様子が伺えた。教師が特別支援学級児童の実態を理解していることで、通常学級児童への伝え方に変化が見られた。その反面、「学級の現状として実施することについてどう感じたか」という質問に対して任意での記述

回答を得た。「無理のない範囲で活動に取り組むことができた」「書いている児童を見て他の児童が書き始める様子が見られた」という意見が出た。できる範囲で行うことがよいと感じた。

VI 研究のまとめ

1 成果

- 「心のつぶやき伝えるシート」を実施することで、担任が思っていたこととは異なる困り感等の本音を聞くことができた。特別支援学級児童に関わる者が共通理解することで、特別支援学級児童が自分らしさを発揮して安心感を得て授業に取り組むことができた。
- 特別支援教育コーディネーターが中心となり、通常学級と特別支援学級のつなぎ役となることで、学習活動の連携を図る基盤となった。さらに、交流及び共同学習を推進していくことで、学校全体が一人一人の児童を理解し認め合うことにつなげることができた。
- 「心のつぶやき伝えるシート」での聞き取り内容を授業に活かしていくことで、特別支援学級児童と通常学級児童の相互理解が深まり、よりよい交流及び共同学習へとつながった。

2 課題

- 「心のつぶやき伝えるシート」は、より児童のつぶやきが引き出せるように、学年に応じて児童に分かりやすい文章表記や項目の精査が必要である。児童の発達段階と学習活動と照らし合わせながらシートを作成していく。
- 実施時期については、新年度や児童の実態に合わせて行うことが必要である。
- 児童のつぶやきを拾うために、繰り返し実施し、授業に活かしていくことで、充実した交流及び共同学習へとつなげていくことが大切である。

VII 提言

特別支援教育コーディネーターを中心に、児童一人一人のつぶやきを聞き取り、学習活動のつまづきを知り、児童に関わる全ての人々が共通理解することで、つぶやきをつなぎ児童相互理解を進めていくことが大切である。

<参考文献>

- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説総則編』
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)解説体育編』
- ・文部科学省 『交流及び共同学習のガイド』（2019 年 3 月改定）
- ・群馬県教育委員会 『特別支援教育課 サポートパッケージ Ver. 04』 令和 3 年 3 月
- ・群馬県教育委員会 『群馬県特別支援教育推進計画』 平成 30 年度～令和 4 年度
- ・群馬県教育委員会 『第 2 期群馬県特別支援教育推進計画』（2018）
- ・国立特別支援教育総合研究所 『小・中学校等における発達障害のある子どもへの教科教育等の支援に関する研究 平成 20－21 年度研修成果報告書』 平成 22 年 3 月
- ・小貫 悟 著 『通常学級での特別支援教育のスタンダード』 東京書籍 2017

<担当指導主事>

関根 一美 町田 直紀